

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300205		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホームあいの街富士川		
所在地	静岡県富士市岩淵131-1		
自己評価作成日	令和3年7月28日	評価結果市町村受理日	令和3年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&UjyosyoCd=2292300205-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年8月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者のADLや体調・介護度に差があり、常に全体が同じように過ごすことは難しいが長く勤め利用者毎に把握している職員が多いのでそれぞれに合わせたケアを実施できていると思う。また、ほとんどが隔週毎に往診を受け、月毎に訪問歯科を受け口腔管理を行えていることで体調変化にいち早く対応し、重度化することなく過ごしていただけていると感じている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初からの勤務となる10年超え職員が3名いるほか4年以上が10名前後と居て、経験値のある職員が新人の面倒をこまめにみることで組織体制が安定しています。「認知症ではこういうことが不穏になりやすい」といった画一的な指導ではなく、「この人はこういった症状、意向があるので…」と個に向き合う努力を積むことが「あつとほ一む新聞」の溢れるような笑顔につながり、抹茶ゼリーに「赤い色がほしい」との利用者の訴えに即スーパーマーケットに走る姿や菓を減らして家族の顔がわかるようになったケースなどが見られ、利用者本人と家族からの信頼は日に日に増えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	One for all,all for one. を理念に置き、GH入り口にスタッフの写真とともに掲示している。 利用者ごとの訴えに耳を傾けケアをすること、スタッフ同士が良い関係性を築けるよう心掛けながら業務を行っている。	「チームで成り立つ業務である」ことは管理者から様々な場面を介して伝えるほか、職員個々の力量に差があることにはLINEを申し送りに位置付けて管理者が工夫のうえフォローしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの蔓延に伴い地域との交流機会が極端に減少。その中でも、可能な限り家族や地域の知人の面会等は受け入れるように努めている。	まちづくりセンターのサークルから手作りマスクやコマが届いています。ひきこもり気味の地域住民を月数時間預かる活動に協力するとともに、近隣の特別養護老人ホームとも連携ができつつあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的な講習会などはできないが、相談にのって欲しいと電話や訪問を受けるケースが増加している。地域で生活している職員が多いので、近隣から介護相談を受けて、利用につながるケースもあり。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナの影響により、対面しての会議の実施できず。資料を通じて利用者状況やサービスについての報告としている。	職員が集まって協議、書面化したものをメンバーに届ける「書面開催」となっているものの、色鮮やかなイラストや写真入りで2ヶ月の様子をまとめていて、事業所の活動が手にとるように解ります。	メンバーから意見が集まるよう、返信書を同封することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例についてこまめに相談を行ったり、市が主催する介護相談員サービスを活用している。	7月まで介護相談員が定期来訪していましたが、蔓延防止となった現在は中断しています。家族が海外在住の利用者の件では、後見人のことで地域包括支援センターに相談にのってもらえています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の対象となる利用者が無いため、研修や話し合いをミーティングにて実施。日中は玄関や入り口の施錠は行わない。	「貴方ならどうしますか?」といった考察への投げかけとともに、詳細の事例やイラストのある資料が昨年から富に増え、身体拘束廃止委員会の場でも「なぜ、そうだったか」を検討していて、本件への誠実さがみてとれます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の機会を利用し、どのような行為が虐待としてとらえられるのかを知り、もしも発見した時にはどのように対応するのかを知る。また、管理者や看護師、ケアマネ、一般職員がオープンには話し合えるような関係性を保つよう心掛ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を活用している利用者がある。内部での研修を通じてどのような制度であるかを学び、適切に活用できているか、他にも必要な方がいないかなど考える機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定の際には判りやすい説明を心掛け、不安な事や疑問点などはいつでも問い合わせさせていただけることを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議には家族や利用者の直接参加が得られていないが、いつでもご意見をいただけることを伝えている。また季節ごとの写真などを添えて、内部の状況が伝わるように努めている。	コロナ禍の面会について本社からリモート面会をセットアップされていましたが、高齢の家族を中心に「無理！」ということになり、時間制限と換気等整えて、対面での安全確保を実現しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを毎月実施し、業務についての意見交換を行っている。また、個別でも求めに応じて施設長との面談の機会を設けている。	インターネット検索を通じて「これやりたい」が遠慮なく若い職員から挙がっており、管理者をはじめ先輩職員が「こうして、ああして」と指南、補佐することが日常に浸透していて、コミュニケーションが円滑です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の技術や体調、年齢に合わせて能力を發揮できるように配慮している。勤務状況によって、他の職員に負担がかかるのでその都度環境が適切に整うように本社側に働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社が実施する内部研修を事業所内で講習として実施。さらに必要に応じて資格取得の研修やトレーニングを受けられるように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響により、事業所同士の交流が難しいためオンラインで管理者同士での意見交換などは行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り、個々の要求に沿って環境を整え、訴えや状況、体調の変化に常に対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時から本人や家族の状況に目をむけ、相談に応じた入り情報を得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況、要望を確認するために連絡を密にし、その時に必要なケアを提案したり適切に支援を行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のADLに合わせた生活レクや、工作レクに参加してもらう。また、利用者が互いに交流を続けられるように職員がつなぐよう心掛けている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの影響により、積極的な外出や面会が困難な為、距離をとった様子確認や写真、電話などを活用して利用者の様子を伝える工夫をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響から積極的な面会交流が難しい状況であるが家族や兄弟姉妹などと連絡を取れるよう配慮する。	面会が十分でない分、大半の人には電話を増やしたり、家族に写真を届けてもらっています。県外在住の家族2名には手紙への返事を職員が代筆するとともに、写真を沢山同封する配慮があります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や好みなどの把握に努め気の合う方同士を繋げるよう努めるとともに、周囲と関わりが難しい利用者にも職員が関わるようにするなどし孤立することがないように配慮する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	別サービスへの移行、退去などにより関係性が直接ではなくなっても家族などとの相談や支援に応じられることを伝え、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの気持ちや要望に出来るだけ寄り添い、訴えが難しい利用者には穏やかに心地よく過ごして頂けるよう心掛けている。	家族が用意してくれた洋服に着替えるとき「ボタンがめんどくさい…」とつぶやけば、「本人はお嫁さんに言いづらいかな」と察して上手に仲介するといったことが自然にできる職員が多くいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活などから好みや習慣などを知り、引き続き出来るだけ過ごしやすいように環境を整えるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に状態が違うため、それぞれが無理なく毎日を過ごして頂ける様に配慮する。また、スタッフがそれぞれの状況を把握し、適切なケアが行えるよう情報を共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に個々のケアについて検討し、本人や家族からの訴えや日々の状況に合わせた対応ができるよう努めている。	「名前を隠しても職員が誰のプランかわかるようなものをつくってください」と実地指導でも助言指導があったことから、焼きなおし的な介護計画とならないように努めています。	コロナが明けたら、担当者欄に家族やボランティアなど職員以外の名前が入ることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録はケアの都度、ソフトに入力するため気づいたことが細かく残されている。さらに、どの職員も記録の確認入力を行うので情報の共有、これを活かした介護計画の作成につながっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の変化や家族状況の変化に対応しながらその時に必要な支援や対応ができるようにいつも心がけている。また、他のサービスへのつなぎとなる事もできるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの蔓延により、積極的に地域との関わりを持つことが難しいが、それぞれの隣人や友人などとの関わりを維持出来るようにしたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の求めに応じて地域の総合病院や往診対応してくれる医師などと関係維持に努めながら適切な医療を受け続けられるように心がけている。	1名は従来のかかりつけ医へと家族の介助で通い、月2回の訪問診療をおこなう地元の医師から8名が親身な対応を受けています。24時間365日連絡がつき、週1回の来所もあって安心です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小規模と兼務している看護師が日々の業務にも積極的に協力してくれるため、利用者状況の把握が行いやすい。確認した状況は受診時に持参する情報を用意したり、かかりつけ医に相談するなどしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より病院関係者やかかりつけの医師と連絡を密にし、入院時には家族と協力して情報共有に努めるとともに、できるだけ早く退院できるように心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より家族などとの関係性を保ち、その気持ちや本人の訴えに寄り添うことができるように心がけている。また、体調や状況の変化を常に共有し、理解してもらうことで適切な支援が行えるよう働きかける。	重度化から看取りに向かうなか話し合いの場も十分に設けられ、現在の協力医となってから職員はストレスなく取り組んでいます。また家族も都度説明を受けて「気持ち静かに見送ることができた」との声も挙り、信頼を基盤に円満な看取りが叶っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況に応じて、連絡体制や対応すべきことは何なのかなどを可視マニュアル化して職員が把握するよう心がける。また、内部研修などの機会を通じて初期対応が行えるように学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設の立地状況により、大雨、台風などの際は特に気にかける問題であるが周辺状況の変化にいち早く対応が出来るよう情報収集に努めている。	背景の山は崩れるリスクがあり、大雨警報がでると緊張感をもった対応となりますが、基本は垂直避難としていて訓練のルーティーンは出来上がっています。備蓄は1週間確保しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人が違うということ、年長者であり尊重すべき存在であるということを職員が認識し、人格を損ねることのない言葉掛けや対応を行うよう心がける。	例えば「年齢が知られるのは恥ずかしい」という利用者にはその話材を避け、誕生日会にも言わないという事が暗黙のルールとなっています。年1回接遇研修をおこなっていて、現状心配な職員はいません。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の状況に合わせた言葉や対応方法を通じて本人の気持ちをくみ取り、選んだり決める機会を持てるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全や体調などに配慮しながら、個々のペースを保って生活ができるようなケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族などの協力により、それぞれに合わせた季節らしい服装をしたり、希望時の理美容サービスを通じ身だしなみを整えられるように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人のレベルに合わせて楽しんでもらえるように食器などを工夫するとともに、可能な範囲で準備や片付けを行えるように促していきたい。	食事は外部から届く材料で職員が手作りしており、お箸とコップは色や模様を利用者に選んでもらっています。スイートポテトや抹茶ゼリー等見た目にも楽しめるおやつは内外で好評です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた形態での食事提供や支援状況を心がけ、状況によっては個別に必要な補食や好みのミキサー食などの調達を行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問対応の歯科医の指導のもと、それぞれに合わせた口腔ケアを行うよう心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間型の記録シートを活用し、訴えと誘導などを行うことで排泄ケアを行う。	日中もおむつという人が1名、夜間のみな人が3名です。リハパンとパットの併用で声掛けのタイミングがずれると失禁となる状況であり、24時間の排泄チェック表で個々のリズムが気遣っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医の判断のもと、必要に応じた内服薬や水分摂取、活動やマッサージなどを行い体調不良につながらないように配慮する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全体的には午前中に入浴時間を設けており、他の利用者が終わると自分もという流れができています。時に、求めに応じて時間を変える対応もできるようにしている。	機械浴の設置がなく、座位が保ちにくい利用者には2名で介助をおこなってはいますが、それでもシャワー浴が精一杯となっている人が1名います。他の人は湯船かシャワーかは、本人の好みとしています。	家族や本人の要望だけでなく、職員の心身の負担も考慮のうえ、機械浴の検討並びに導入を中長期で進めていくことを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に合わせてこまめに離床・臥床の支援をおこなうことで体調を損なうことなく日中を過ごしていただけるように配慮する。また、それぞれに合わせて就寝支援を行えるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医の処方毎に情報提供を受け、看護師や管理者が服薬について把握。変化に合わせて医師と相談しながら適切に内服できるように心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞の購読、これまでの職業から推測したレクなどを提供することにより、それぞれの毎日を楽しみながら過ごすよう心がける。また、誕生日会や季節の行事を通じて気分転換につながるよう考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状況的に求めに応じた外出が大変困難であるが、環境整備や家族などの協力を得ながら実施できるように支援を心がける。	降りないドライブで興津の海岸や山越えの裏道を走ったところ、「あそこには〇〇があるよ」と発語も引きだせています。コロナ禍で外食はできませんが、新聞のチラシをみて「いいね!」となれば取りよせて愉しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれが管理することは難しいため、希望に応じて買い物などを行える様に預かり金などを用意して支援を実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて代筆や代送、通話の支援やメール送付など家族や本人の状況に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の整備を心がけ、室温管理や季節感のある掲示物などを取り入れている。	「キルト風」「秋」「ひなまつり」「苺」等々季節を感じる壁画を毎月制作するとともに時節行事にも力を入れており、バレンタインにはココアクッキーの調理レクが開催されていて、共用空間の賑わいは日常的です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが落ち着く席をある程度決めておくと同時に、状況の変化や気分に合わせて臨機応変に変更できるように心がけている。また、職員もケアに合わせて座って対応することで、さらに落ち着いた空間になるように配慮する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ADL状況や家族の協力により居室には本人が心地よく過ごせるようなものを配置している。	筆筒、テレビとともに家族の写真などが持ち込まれ、孫の御食い初めの写真がひとときわ輝く居室もみられます。車いすが通れるようにベッドの位置を変えるなどの動線確認も都度おこなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用期間が長くなり介護度の変化によって自立度が下がる場合もある。時には安全への配慮から、居室位置の変更などを試みたり物品の移動により自分でできるように工夫することもある。		